

令和4年度 事業報告

財団の概要

当財団は、将来の人づくりを共通の目的として財団法人福岡県教育文化振興財団、財団法人福岡県青少年科学教育普及協会、財団法人福岡県奨学会の3財団の統合により、平成16年4月1日から財団法人福岡県教育文化奨学財団として、旧財団が行ってきた教育文化事業、科学教育事業及び奨学事業を引き継ぐとともに効率的・効果的な事業を展開した。

福岡県から公益財団法人への移行認定を受け、平成25年4月1日から公益財団法人福岡県教育文化奨学財団に名称を変更し、新たにスタートした。

第1 教育文化事業

1 事業概要

県内の教育文化団体等が実施する県民の教育文化活動を促進するための事業に対し、経費の一部を助成する「教育文化助成事業」を実施した。

併せて、財団が自主的に県民の教育文化活動を振興するために、教育文化団体等と共催で行う事業の経費の一部又は全部を負担し、当該団体等に執行させる「教育文化振興事業」を実施した。

2 事業の状況

(1) 教育文化助成事業

ア 青少年活動助成事業（決算額 1,655,510 円）

青少年体験活動助成事業

青少年の自主性、社会性、芸術性を培う多様な体験活動事業及びボランティアに関する学習や実践活動のための体験事業に対して助成した。

イ 地域文化活動助成事業（決算額 4,413,573 円）

(ア) 芸術文化活動助成事業（決算額 4,168,573 円）

芸術文化団体・グループ等が地域の文化振興のために実施する事業及び地域における芸術文化活動の活性化に不可欠な人材の育成を図る事業に対して助成した。

(イ) 文化財保存活動助成事業（決算額 245,000 円）

県下に残る民俗芸能等の文化財を後世に継承するための保存活動及び後継者養成活動等に対して助成した。

ウ 教職員研究助成事業（決算額 677,565 円）

教育研究団体等が、教育課題の解決に向け自主的・先導的に行い、かつ、有益な成果が期待される研究・実践活動に対して助成した。

エ その他の助成事業（決算額 300,000 円）

中学校の文化部活動に対し、予算の範囲内で助成した。

(2) 教育文化振興事業

ア 生涯学習振興事業（決算額 2,399,543 円）

(ア) 子どもの学校外教育支援事業（決算額 2,099,543 円）

自然体験やボランティア活動、読書活動など、体験や活動の機会の提供や、子どもの活動を支えるボランティアの育成活動を支援した。

(イ) 国際交流支援事業（決算額 300,000 円）

小・中学校等へ外国人や海外経験をもつ日本人を派遣し、国際理解の促進と国際的視野をもった人材育成を図る事業を支援した。

イ 文化振興事業（決算額 5,171,000 円）

芸術文化事業

青少年の豊かな心を醸成するため、芸術鑑賞の機会を提供する事業や博物館等の独自の機能をいかした地域の活性化に繋がる事業を支援した。

ウ 顕彰事業（決算額 72,000 円）

教育実践研究や児童・生徒を対象とした競技会等で優秀な成績を収めた者を報奨した。

エ その他の振興事業（決算額 600,000 円）

財団設立の趣旨に沿う教育文化に関する創造的な学習、研究等の諸活動を特別に予算の範囲内で支援した。

第2 科学教育事業

1 事業概要

当財団は、福岡県が実施する指定管理者制度に基づき、久留米市中央公園内に設置された福岡県青少年科学館の管理・運営を行っている。

福岡県青少年科学館は、平成2年4月1日に設置され、同年5月1日に開館した。施設は、展示部門、プラネタリウム部門及

びライブラリー部門を備えている。展示部門においては、展示品目150点を常設展示している。プラネタリウム部門においては平成18年4月にレーザープロジェクター、平成29年2月に高精細デジタルプロジェクターを導入・稼働し、学習番組及び一般番組・全天周映画を放映するほか、天文や科学教育普及に関する各種事業のより一層の充実を図っている。ライブラリー部門においては、科学に関する書籍を揃え、科学技術に関する興味・関心・意欲の向上を図っている。

展示更新については、平成7年度に「地球」コーナー、平成8年度に「乗り物」コーナー、平成9年度に「地球にはたらく力」コーナー、平成10年度に「宇宙」コーナー、平成11年度に「マルチメディアシステム」コーナー、平成12年度に「コンピュータ」コーナーの更新を行った。また、平成18年度に独立行政法人物質・材料研究機構による「ナノテクノロジー解説装置」、平成23年度に「環境と自然の力」コーナー及び「先端科学技術」コーナーを新たに設置した。平成29年度は「宇宙」、「礎となる科学」、「わくわくラボ」、「自然と環境」、「キッズ」、「ロボット・科学技術」コーナーの更新を行い、令和元年度は「宇宙」、「わくわくラボ」、「ロボット・科学技術」コーナーのそれぞれ一部更新を行い、青少年に科学との出会いを促すとともに、本県科学教育の普及・振興に努めているところである。

平成22年5月1日には、開館20周年を迎え、記念講演会や記念イベント週間、プラネタリウム学習番組の制作、特別企画等を行った。同年7月29日には入館者数が累計500万人を、平成25年8月12日には累計600万人、平成28年11月19日には累計700万人、令和元年9月28日には累計800万人を達成した。令和2年5月1日には、開館30周年を迎え、記念講演会や特別企画を行った。

2 施設の利用状況

(1) 展示部門の利用状況

令和4年4月1日から令和5年3月31日までの利用者数は、一般52,672名、児童・生徒等67,171名、計119,843名となっている。

(2) プラネタリウム部門の利用状況

令和4年4月1日から令和5年3月31日までの利用者数は、一般26,508名、児童・生徒等33,230名、計59,738名となっている。

(3) 利用者数の合計

一般79,180名、児童・生徒等100,401名、計179,581名となっており、県民への科学教育の普及・振興に成果を上げているところである。

3 実施した事業の概要

県民への科学教育の普及・振興、特に青少年の科学への興味と関心を高め、科学する心を培うため、次の事業を実施した。

(1) 特別展・企画展・作品展・巡回展

ア 特別展

(ア) 「昆虫アカデミア～きみがバグズパワー研究員だ!～」(令和4年7月9日～8月31日)

「昆虫」をテーマに、生体展示や標本展示を通して、触れながら体験的に昆虫について学ぶことで、青少年の科学に対する興味・関心を喚起し、併せて県民への科学教育の普及・振興を図ることを目的として実施した。

参加者 33,866名 出展数 130点

(イ) 「アリスのサイエンスワールド～絵本の世界でふしぎ体験～」(令和5年3月11日～5月7日)

「不思議の国のアリス」の絵本の世界をプロジェクションマッピングや3Dシアター、3Dアート等の不思議な世界に入り込むことができる展示を通して科学の不思議さを学ぶことで、青少年の科学に対する興味・関心を喚起し、併せて県民への科学教育の普及・振興を図ることを目的として実施した。

参加者 11,730名(令和5年3月31日現在) 出展数 26点

イ 企画展

「Space Engineering Challenge～宇宙エンジニアからの挑戦状～」(令和4年12月10日～令和5年1月9日)

福岡県を拠点として行われている最先端の宇宙産業や宇宙工学の研究について、人工衛星やロケットの実物を展示・紹介することで、青少年の科学に対する興味・関心を喚起し、併せて県民への科学教育の普及・振興を図ることを目的として実施した。

参加者 5,058名 出展数 55点

ウ 作品展

「小・中学生理科研究コンクール」(令和4年10月1日～10月16日)

県内の小学生や中学生が個人又はグループで調べ、創作した理科に関する研究作品を募集し、表彰・展示することによって、子どもの科学する心を育むとともに、科学を追究・研究する子どもたちを奨励し、併せて県民への科学教育の普及・振興を図ることを目的として実施した。

参加者 10,006名 出展数 137校 822点

エ 巡回展

(ア) 「いのちってなに？」(令和4年5月28日～6月19日)

私たちの体がなにできているのか、私たちの生活の中で、生命に関してわかっていることをどのようにいかしているのか等を紹介するパネルや模型を展示した。

参加者 5,488名 出展数 19点

(イ) 「日本の生物多様性とその保全」(令和5年1月21日～2月12日)

日本の生物多様性の豊かさと、それを守るために取り組んでいる保全活動等を紹介するパネルや昆虫標本を展示した。

参加者 4, 148名 出展数 37点

(2) コスモシアター運営

天文に対する興味・関心を高めるとともに、天体に関する知識・理解を深めるため、学校の理科学習の一助としての「学習番組」（学習指導要領に準拠した学習プログラムを含む。）及び迫力あるCGデジタル映像を駆使した一般向けの「一般番組」「全天周映画」の投映を行った。

ア 学習番組

- ・幼児向け番組「オズのまほうつかい～星空のまほうの国へ～」、「ジャックとまめの木～星の国だいぼうけん～」
「ケンタのほしさがシイルカのドルとだいぼうけん」、「手ぶくろを買いに」
「こぐま座のティオ 星空だいぼうけん」
- ・小学校低学年向け学習番組「プラネタリウム はなかつば 花さけ！パッカ～ん 宇宙旅行」
「忍たま乱太郎の宇宙大冒険 with コズミックフロント☆NEXT 月ウサギがクレーターをかけるの段」
- ・小学校4年生向け学習プログラム
- ・小学校6年生向け学習プログラム
- ・中学生向け学習プログラム
- ・小学生向け学習番組「ワク・ドキ！探険☆大宇宙 ガリレオとめぐる太陽系の旅」
- ・中学生向け学習番組「ワク・ドキ！探険☆大宇宙 アインシュタインとめぐる銀河系の旅」
- ・環境学習番組「みずものがたり」

イ 一般番組・全天周映画

- ・名探偵コナン 灼熱の銀河鉄道
- ・ポケットモンスター オーロラからのメッセージ
- ・ヒーリングアース
- ・クレヨンしんちゃん 宇宙からの来訪者 カスカベ大パニック
- ・スペース フロンティア ～宇宙飛行士 この一歩のために～
- ・プラネタリウムで チコちゃんに叱られる チコとキョエの宇宙大冒険！ 無知との遭遇

(3) 科学教育普及活動

ア 科学教育普及事業

- (ア) おもしろサイエンスフェア（令和4年11月19日・20日）
特設のサイエンスショー、特別イベント等を実施した。
参加者 2, 183名

(イ) サイエンス教室 [10回]（令和4年5月～令和5年2月）

小・中学生に対し、観察・実験を通して身の回りの科学に触れながら、科学の面白さを体験させ、科学する心を培うことを目的に実施した。

参加者 114名

(ウ) ものづくり工房 [12回]（令和4年5月～令和5年2月）

小・中学生に対し、電子部品等を使った科学工作を通して工作の技術を身に付けさせ、その仕組みを理解させるとともに、作品を完成させる達成感を味わわせ、科学に対する興味・関心を高めることを目的に実施した。

参加者 153名

(エ) プログラミング教室 [6回]（令和4年6月～令和5年1月）

小・中学生に対し、ロボットプログラミング体験を通して機械制御に対する楽しさを味わわせ、科学に対する興味・関心を高めることを目的に実施した。

参加者 51名

(オ) 科学工作教室 [112回]（令和4年4月～令和5年3月）

当日の入館者に対し、比較的簡単でしかも興味深い工作の場を提供することで、科学への興味・関心を高めることを目的に実施した。団体利用者に対しても希望があれば臨時で実施した。

参加者 4, 348名（臨時科学工作教室を含む。）

イ 天文教育普及事業

(ア) 星空教室 [8回]（令和4年4月～令和5年3月）

天文に関する知識や観察技術を分かりやすく提供することを目的に、季節の代表的な星や星座の見つけ方の学習後、プラネタリウムでの実習を行った。また、話題の天文現象や星座早見盤の使い方についての解説を行った。

参加者 157名

(イ) 市民天体観望会 [10回]（令和4年5月～令和5年2月）

天文に関する興味・関心を高めることを目的に、当館のプラネタリウム、天体観測施設・設備を利用し、実際に月や惑星等を観察する機会と場を提供した。

参加者 503名

(ウ) 星と音楽の夕べ [2回]（令和4年7月2日、12月17日）

天文教育の普及を図るため、プラネタリウムによる季節の星座解説と生演奏による音楽会を実施した。

参加者 283名

(エ) ファミリープラネタリウム [4回]（令和4年7月～11月）

家族で楽しみながら天文や宇宙に親しむことができるよう、双方向のコミュニケーションを重視した生解説を行い、天文教育の充実に配慮した星空解説や身近な天文現象の紹介を行った。

参加者 309名

(オ) 科学講演会 [1回] (令和5年1月9日)

九州大学教授の花田俊也氏、福岡大学助教授の川端洋氏、QPS研究所のエンジニアの古賀洋平氏及び e-SET の構成メンバーを講師に招き、福岡で行われている最先端の宇宙工学技術に関して講演を実施することで、宇宙への興味・関心を高め、科学教育の普及・振興を図った。

参加者 98名

(カ) 天文ボランティア養成講座 [4回連続] (令和4年9月10・17・24日、10月1日)

天文ボランティア養成のため、天文学や天体観測機器に関する知識・技能を習熟させ、また観望会運営に関する実習等を行い、観望会を実施できる資質を身に付けたボランティアを養成するための研修を実施した。

参加者 27名

ウ 連携事業

(ア) ネットワーク推進事業 [14回] (令和4年7月～令和5年2月)

県内の子どもたちへの科学教育の普及・振興を図ることを目的として、県立社会教育施設や関係機関、久留米市等が実施するイベントや科学・天文事業に職員の派遣を行った。

参加者 2,153名

(イ) 科学館ボランティア (通年)

科学ボランティア (科学工作教室、ものづくり工房で活動) 及び天文ボランティア (市民天体観望会で活動) に活動の場を提供した。

令和4年度活動者数 (登録者数)

・科学ボランティア 29名

・天文ボランティア 43名

(ウ) 研修生受入

○高校生の「インターンシップ」 (令和4年7月) : 6名

○大学生の「インターンシップ (夏)」 (令和4年8月) : 3名

○大学生の「インターンシップ (春)」 (令和5年2月～3月) : 4名

○学芸員資格取得のための「博物館実習」 (令和4年7月) : 2名

(4) 調査研究・広報活動

利用者の便宜を図るために、科学に関する資料の調査・収集、レファレンスサービス等を行うとともに、科学館ニュース等の定期刊行物及びホームページによる科学情報の提供を行った。

また、教育事務所、市町村教育委員会、学校との連携を一層強化して、県内及び隣県の団体利用の促進を図るとともに、新聞やテレビ等マスメディアを活用して積極的な広報、周知活動に努めた。

第3 奨学事業

1 事業概要

当財団においては、奨学事業として奨学金等貸与事業及び福岡県学生会館の管理運営を行っている。

令和4年度において、高等学校入学支度金は、1,615人に対し125,150,000円を、また高等学校奨学金は、8,460人に対し2,080,175,000円を貸与し、貸与総額は、2,205,325,000円であった。

一方、奨学金の返還については、返還義務額6,589,728,013円に対し3,813,712,713円の返還があり、回収率 (返還期到来分) は57.87%であった。なお、繰上返還分を含む返還収入額は、4,124,965,054円であった。

2 事業の状況

(1) 奨学生の募集

高等学校奨学金の予約募集については、中学校在学中に市町村教育委員会を通じて募集を行い、同奨学金の在学募集は4月入学後から5月10日まで、緊急募集は4月入学後、随時募集を行った。

また、奨学生の選考については、奨学生選考委員会を開き、奨学生の採用を決定した。(緊急募集を除く。)

なお、令和4年度の出願率及び採用状況は次のとおりである。

区分	定員 (人)	出願者数 (人)				出願率 (倍)	採用決定者数 (人)			
		予約 募集	在学 募集	緊急 募集	合計		予約 募集	在学 募集	緊急 募集	合計
支度金	1,663	3,235	—	—	3,235	1.95	1,977	—	—	1,977
奨学金	2,983	3,706	722	46	4,474	1.50 (1.24)	3,097	654	43	3,794
合計	4,646	6,941	722	46	7,709	1.66 (1.49)	5,074	654	43	5,771

※ 高等学校奨学金出願率の上段 : 予約・在学・緊急募集を合わせた出願率
下段 () 書き : 予約募集のみの出願率

(2) 奨学金の貸与

奨学金は、本人名義の普通預金口座に3ヶ月分ずつ年4回に分けて振込を行った。令和4年度貸与額及び貸与実績は、次のとおりである。

区分		国・公立、私立、学年別		貸与額	
高等 学校	支 度 金	国・公立		50,000円	
		私 立		100,000円	
	奨 学 金	国・公立	1・2・3・4・5年生	(自 宅) 月 額	18,000円
					15,000円
				10,000円	
		私 立	1・2・3・4・5年生	(自 宅 外) "	23,000円
				20,000円	
			15,000円		
		(自 宅) "	25,000円		
			15,000円		
			10,000円		
		(自 宅 外) "	30,000円		
			20,000円		
			15,000円		

令和4年度 貸 与 金

区分	学 年	国・公立 私立別	当初予算額		貸与実人員	貸与金額		
			人員	金額				
高等 学校	支 度 金	国・公立	772人	38,600千円	727人	36,350千円		
		私立	891人	89,100千円	888人	88,800千円		
		計	1,663人	127,700千円	1,615人	125,150千円		
	奨 学 金	1	国・公立	2,983人	741,180千円	自宅	1,010人	196,749千円
			自宅外			17人	4,428千円	
			私立	1,653人	458,100千円	自宅	1,653人	458,100千円
			自宅外			107人	36,630千円	
		2	国・公立	2,743人	691,944千円	自宅	988人	189,950千円
			自宅外			14人	3,696千円	
			私立	1,616人	448,410千円	自宅	1,616人	448,410千円
			自宅外			104人	37,230千円	
		3	国・公立	2,861人	704,700千円	自宅	1,166人	224,360千円
			自宅外			14人	3,792千円	
			私立	1,545人	419,795千円	自宅	1,545人	419,795千円
			自宅外			108人	37,860千円	
	4	国・公立	251人	62,484千円	自宅	56人	10,164千円	
		自宅外			5人	1,298千円		
		私立	38人	4,290千円	自宅	38人	4,290千円	
		自宅外			0人	0千円		
	5	国・公立	47人	11,748千円	自宅	12人	2,226千円	
		自宅外			7人	1,197千円		
		私立	0人	0千円	自宅	0人	0千円	
		自宅外			0人	0千円		
	校 金	計	国・公立	8,885人	2,212,056千円	3,289人	637,860千円	
私立			5,171人			1,442,315千円		
合 計		入学支度金	1,663人	127,700千円	1,615人	125,150千円		
		奨学金	8,885人	2,212,056千円	8,460人	2,080,175千円		

貸与総額

2,205,325 千円

(3) 奨学金の返還

適切な返還計画に基づき円滑な返還促進を行った。滞納者に対しては、毎月督促状を発送し、架電督促や滞納債権督促員による訪問督促を実施した。

また、9月にわたり返還がない者1,170名に対して支払督促申立予告を行い、582名に対して支払督促申立を行った。さらに、215名に対して強制執行手続開始を通告し、3名の者に対して債権差押命令申立を行った。

加えて、法的措置後の長期滞納者(1,727人、883,215,420円)に対して、債権回収会社による回収業務の委託を行い、650件、15,029,828円を回収した。

令和4年度の回収状況は次のとおりである。

令和4年度の回収状況は、次のとおりである。

区分	返還期日到来分										返還収入額					
	返還該当額 ①		猶予等額 ②		返還義務額 ③		返還収入額 ④		未返還額 ⑤ (③-④)		返還期日到来分④ (再掲分)		繰上返還分⑥		計 ④+⑥	
	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額
高等学校 (支度金)	92,732 (31,830)	7,447,343,391 (410,188,660)	10,932 (4,265)	903,015,701 (54,249,108)	87,041 (29,798)	6,544,327,690 (355,939,552)	79,069 (26,138)	3,789,651,185 (177,096,679)	7,972 (3,660)	2,754,676,505 (178,842,873)	79,069 (26,138)	3,789,651,185 (177,096,679)	2,372 (1,136)	310,988,141 (18,922,751)	81,441 (27,274)	4,100,639,326 (196,019,430)
大学	208	112,838,561	94	67,438,238	204	45,400,323	191	24,061,528	13	21,338,795	191	24,061,528	3	264,200	194	24,325,728
計	92,940	7,560,181,952	11,026	970,453,939	87,245	6,589,728,013	79,260	3,813,712,713	7,985	2,776,015,300	79,260	3,813,712,713	2,375	311,252,341	81,635	4,124,965,054

返還回収率 (④/③) 57.87 %

【参考】
繰上返還分含む返還回収率 (④+⑥/③+⑥) 59.77 %

(4) 卒業奨学生に対する返還書類送付

令和5年3月卒業生に対し、令和4年10月11日に返還書類の関係書類を送った。

卒業生は次のとおりである。

区分	卒業生数
高等学校	2,960人

(5) 福岡県学生会館の運営

ア 福岡県学生会館

所在地 神奈川県横浜市青葉区荏田西一丁目14番の2
 建物 鉄筋コンクリート造5階建
 1室1人部屋
 収容人員 150人
 英彦寮(男子居住区) 100人
 筑紫寮(女子居住区) 50人

イ 福岡県学生会館入館選考状況

募集期間が令和4年11月2日から令和4年11月28日までの早期募集と、令和4年12月26日から令和5年2月3日までの通常募集を行い、学生会館運営委員会で選考し、内定者の辞退においては、随時、追加で募集を行い、次のとおり入館者を決定した。

区分	募集定員	申込者数	入館決定者数
福岡県学生会館	英彦寮	70人 (11人)	53人 (11人)
	筑紫寮	33人 (13人)	28人 (13人)

※ 申込者数・入館決定者数の上段 : 早期・通常募集及び追加募集をあわせた人数
 下段 () 書き : 早期募集のみの人数